

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

『琉球訳』 「訳天」・「訳地」・「訳数」の対音解 読

著者	丁 鋒
出版者	法政大学沖縄文化研究所
雑誌名	琉球の方言
巻	23
ページ	77-94
発行年	1999-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/11906

『琉球訳』「訳天」・「訳地」・「訳数」の対音解説

丁 鋒

凡例：

一、本文の主旨と参考書

『琉球訳』（1800）の「訳天第四」、「訳地第五」、「訳数第七」に漢字表記された琉球寄語の発音を解説する。十八世紀の北京音と現代四川羅江県（作者李鼎元の故郷）方言音を取り入れ、琉球音と合わせ、中琉対音を再現する。

首里音は主に『沖縄語辞典』（国立国語研究所 1925年）、『クリフォード琉球語彙』（勉誠社文庫71 亀井孝解説 1979 文中に『琉球語彙』と略称）（原作『A Vocabulary of the Loo-choo Language』（H.J.Clifford 1818年）に参考する。北京音は『李氏音鑑』（李汝珍 1785年）『音韻逢源』（裕恩 1840年）に参考する。羅江方言は『四川方言調査報告』（楊時逢 台湾 1984年）に参考する。

二、対音字、対音と音記符号

対音字の発音と琉球（首里）音はともに国際音声記号で統一して音記する。各寄語の後にある↔の前後の〔 〕内は清代（北京）官話音（四川羅江音と『中山伝信録』から取り入れた寄語に反映された編著者徐葆光の発音はともに解説文に説明する）と解説音（琉球首里音）である。引用した『沖縄語辞典』の発音の後ろの（ ）内に「＝」（同じ）、「←」（～から変化してきた）、「→」（～へ変化してゆく）の後ろも国際音記である。解説音の後ろの（ ）内にある単語は日本語表記である。『沖縄語辞典』を引用した場合はそれが『沖縄語辞典』の日本語表記で、引用していない場合はそれが日本本土の日本語表記である。『琉球訳』には実際に琉球で使っていない言葉と読方が多く取り入れられ、それらの語の発音を解説文に引用しなく、日本本土と琉球との仮名発音対応関係で、日本語発音を琉球語発音に化して音記する。以下は琉球（首里）語音記、日本語仮名（括弧内）、中国語対音字とその発音の順でその対応関係を示す。『中山伝信録』からそのまま取入れた寄語の対音字は字を〔 〕内にして示す。四川羅江方言音で音記したと考えられる字は（ ）内にして表す。その他は北京音である。

1. [ʔa, ʔa:]（あ、ああ）：阿 [a]
2. [ʔi, i:]（い、いい、え、えい）：一 [i]
3. [ʔu, ʔu:]（う、うう、お、おう）：武 [u] 勿 [u] 烏 [u] 〔屋〕[u] 五 [u]
午 [u]

4. [ka, ga, ka:, ga:] (か、が、かあ、があ) : 喀 [k'a]
5. [tʃi, dʒi, tʃi:, dʒi:] (き、ぎ、け、げ、きい、ぎい、けい、げい、じ、じい、ぢ、ぢい) :
及 [tɕi] (例外 : 182 條 ki: に対音する)。汁 [tʃɿ] 直 [tʃɿ] 日 [ʒɿ] [執] [tʃɿ] (日・執
は濁音に対音)。
6. [ku, gu, ku:, gu:] (く、ぐ、くう、ぐう、こ、ご、こう、ごう) : 古 [ku] 姑 [ku]
枯 [k'u] 孤 [ku] 骨 [ku] 苦 [k'u]
7. [sa, sa:] (さ、さあ) : (煞) [sa] (羅江音である。北京音は [ʃa])
8. [ʃi, ʃi:] (し、しい) : 石 [ʃɿ] 詩 [ʃɿ] 詩 [ʃɿ] 十 [ʃɿ] [細] [ɕi] 什 [ʃɿ]
9. [si, si:] (す、すい、せ、せい) : 息 [si] 席 [si] 洗 [si] 些 [siɛ]
10. [su, su:] (そ、そう) : 蘇 [su] [速] [su]
11. [ta, da, ta:, da:] (た、だ、たあ、だあ) : 答 [ta] 達 [ta]
12. [tsi, dzi, tsi:, dzi:] (つ、づ、つい、づい) : 即 [tsi] (例外 : 75 條 tʃi に対音) 子 [tsɿ]
13. [tu, du, tu:, du:] (と、ど、とお、どお、とう、どう) : 獨 [tu] 度 [tu] 禿 [t'u]
讀 [tu]
14. [na, na:] (な、なあ) : 那 [na] (例外 : 第 201 條 no に対音) 納 [na] (例外 : 183 條
ra に対音) 拿 [na]
15. [ni, ni:] (に、ね、にい、ねい) : 泥 [ni] (宜) [ni] (羅江音である。北京音は i) 你
[ni]
16. [ɸa, ɸa:] (は、はあ) : 法 [fa] (河) [xy]
17. [ɸi, ɸi:] (ひ、へ、ひい、へい) : 許 [ɕy] 虛 [ɕy]
18. [ɸu, ɸu:] (ふ、ほ、ふう、ほう、ほお) : 父 [fu] (例外 : 104 條 u に対音)
福 [fu] 甫 [fu] (火) [xu] 服 [fu]
19. [ba, ba:] (ば、ばあ) : 巴 [pa] ハ [pa]
20. [bi, bi:] (び、べ、びい、べい) : 比 [pi] 必 [pi]
21. [bu, bu:] (ぶ、ぼ、ぶう、ほう、ぼお) : (卜) [pu]
22. [nu, nu:] (ぬ、の、ぬう、のう、のお) : 奴 [nu] (例外 : 179 條 ru に対音)
23. [ma, ma:] (ま、まあ) : 媽 [ma] 麻 [ma]
24. [mi, mi:] (み、め、みい、めい) : 每 [mæi] 米 [mi] 眉 [mæi]
25. [mu, mu:] (む、も、むう、もう) : 木 [mu] 姆 [mu]
26. [ia, ia:] (や、やあ) : 牙 [ia] 呀 [ia]
27. [iu, iu:] (ゆ、ゆう) : 由 [iəu] 有 [iəu]
28. [ra, ra:] (ら、らあ) : 喇 [la] [拉] [la]
29. [ri, ri?, ri:] (り、れ、りい、れい) : 里 [li] 力 [li] 利 [li]

30. [ru, ru:] (る、ろ、るう、ろう、ろお) : 禄 [lu] 六 [lu] [羅] [lu]
31. [ua, ua:] (わ、わあ) : 瓦 [ua]
32. [io] (よう) : 若 [ɹuo] 唷 [io] 藥 [iau]
33. [ɹia] (しや) : 蝦 [ɹia]
34. [ɹiu] (しゆ) : 壽 [ɹou] 叔 [ɹu] 書 [ɹu]
35. [ɹio:] (しょう) : 説 [ɹuo] 学 [ɹyɐ]
36. [tɹio:] (ちよう) : 覚 [tɹyɐ] 著 [tɹuo]
37. [tɹu, tɹiu:] (ちゆ、ちゆう、ちょ、ちよう、きゆ、きゆう) : 朱 [tɹu] 諸 [tɹu]
38. [dɹiu, dɹiu:] (ぢゆ、ぢよう、ぎゆ、ぎゆう) : 如 [ɹu] [徂] [ts'u]
39. [ɸia, ɸia:] (はや、はやあ) : [撒] [sa] [夏] [ɹia]
40. [kaN] (かん、がん) : 感 [kan] 剛 [kaŋ] 干 [kan]
41. [kuN] (くん、こん、ぐん、ごん) : 公 [kuŋ]
42. [tɹiN] (きん、ちん) : 金 [tɹin]
43. [saN] (さん) : [掺] [san]
44. [ɹiN] (しん、せん) : 森 [sən] 尋 [ɹyn] [先] [ɹien]
45. [dɹiN] (じん、ぜん) : 仁 [ɹin]
46. [taN, daN] (たん、だん) : 旦 [tan]
47. [baN] (ばん) : 版 [pan]
48. [buN] (ぼん、ぶん) : 奔 [buən]
49. [kuaN] (かん、くわん) : 貫 [kuan]
50. [iaN] (やん) : 筵 [ien]
51. [kai] (かい、がい、かえ、がえ) : (街) [kai] (界) [kai] (街 界は羅江音である。北京音は [tɹie] と発音。)
52. [mai] (まい) : [買] [mai]
53. [gua] (ぐあ) : 括 [kua]
54. [kuai] (くあい) : 怪 [kuai]
55. [dai] (だい) : 代 [tai]
56. [po:] (ほう) : 泊 [po]
57. [dzu] (ず) : 竹 [tɹu]
58. [ti:] (てい) : [抵] [ti]

以下の音記は本土日本語を記している。

[ko] (こ) : [科] [k'o]

ほかに、不規律な対音もいくつか有る :

[ma] (ま) : 毛 [mau]

[i] (い) : 維 [uəi]

[giuau] (ぎわう) : 寡 [kua]

[p'io] (びょう) : 薄 [po]

[ki] (け) : [革] [kə]

文中の寄語の通し番号は検索便利のために入れた。寄語の中国語単語は二つ或は二つ以上有る時、語と語の間に112條「淋 霪 霖曰那喀阿眉」のように一字あきにする。

譯 天 第 四

1. 天曰阿眉 [aməi] ↔ [ʔami (天)]

あめ、大空のこと。

2. 宇 宙 霄曰蘇喇 [sula] ↔ [sura (空)]

沖縄語辞典に「空 sura」とある。

3. 東曰許喀石 [ɕyk'aʃl] ↔ [ɕigaʃi (東)]

沖縄語辞典に「東 hwigasi」(si=ʃi)、琉球語彙に「east Fingassee」とある。

4. 南曰米那米 [minami] ↔ [minami (南)]

琉球語彙に「south minami」とある。

5. 西曰宜石 [niʃl] ↔ [niʃi (西)]

琉球語彙に「west neeshee」、沖縄語辞典に「西 nisi」(si=ʃi)とある。「宜」は四川羅江の方言音で、北京語はiと発音する。

6. 北曰及答 [tɕita] ↔ [tʃita (北)]

琉球語彙に「north cheeta」とある。

7. 中央曰朱筵 [tʃuɛn] ↔ [tʃiuɛN (中央)]

沖縄語辞典に「中」はcuu (tʃiu:)と読む。「央」はuu (u:)と読むべきが「筵」の発音によると、中国語の「iaŋ (iaN)の発音をしていると考えられる。

亦曰那喀 [nak'a] ↔ [naka (中)]

沖縄語辞典に「中 naka」とある。琉球語彙に「finger, middle nackka eebee」とある。

8. 早曰法牙石 [faiəʃl] ↔ [ɕaiaʃi (早い)]

亦曰阿煞 [asa] ↔ [ʔasa (朝)]

沖縄語辞典に「朝 ʔasa」、琉球語彙に「meal, 2nd(two hours after) assa bung」とある。煞の聲母は北京語ではʃで、四川羅江方言ではsである。

9. 晚曰古里祿 [kulilu] ↔ [kuriru (暮れる)]

晩は「夜」の意味で「日暮」にやや違い。

10. 晴 霽曰法里禄 [faliru] ↔ [Φariru (晴れる)]
 沖縄語辞典に「晴れる harijuN、(ha ← Φa)」とある。
11. 陰 霾曰古木禄 [kumulu] ↔ [kumuru (曇る)]
 沖縄語辞典に「曇る kumujuN」とある。
12. 旱曰許獨力 [çytuli] ↔ [Φidiri (旱)]
 広辞苑「旱 ひでり」とある。本土の de (で) は首里語で di と読む。対音字の「獨」の発音は di とズレがある。
13. 神曰喀米 [k'ami] ↔ [kami (神)]
 沖縄語辞典に「神 kami」とある。
14. 春曰法禄 [falu] ↔ [Φaru (春)]
 沖縄語辞典に「春 haru」(ha ← Φa) とある。
15. 夏曰那即 [natsi] ↔ [natsi (夏)]
 沖縄語辞典に「夏 naçi」(çi=tsi) とある。
16. 秋曰阿及 [atçi] ↔ [ʔatʃi (秋)]
 沖縄語辞典に「秋 ʔaci」(ci=tʃi) とある。
17. 冬曰父由 [fuiəu] ↔ [Φuiu (冬)]
 沖縄語辞典に「冬 huju」(hu=Φu) とある。
18. 年 歳曰獨石 [tuʃt] ↔ [tuʃi (年)]
 沖縄語辞典に「年 tusi」(si=ʃi) とある。
19. 閏曰武禄 [ulu] ↔ [ʔuru (閏)]
 沖縄語辞典に「閏年 ʔurudusi」「閏月 ʔuruzici」とある。
20. 時 辰曰獨及 [tutçi] ↔ [tutʃi (時)]
 沖縄語辞典に「時 tuci」(ci=tʃi)、琉球語彙に「hour twitchee」とある。
21. 丑曰午石 [uʃt] ↔ [ʔuʃi (丑)]
 沖縄語辞典に「丑 ʔusi」(si=ʃi)、琉球語彙に「cow meeooshee」とある。
22. 寅曰獨喇 [tula] ↔ [tura (寅)]
 沖縄語辞典に「寅 tura」、琉球語彙に「tyger toora」とある。
23. 卯曰武 [u] ↔ [ʔu: (卯)]
 沖縄語辞典に「卯 ʔuu」とある。
24. 申曰撒禄 [salu] ↔ [saru (申)]
 沖縄語辞典に「申 saru」、琉球語彙に「monkey saroo」とある。
25. 午曰嗎 [ma] ↔ [ʔNma (午)]
 沖縄語辞典に「午 ʔNma」(ʔN ← u)、琉球語彙に「horse ma (chinese)」とある。「ʔN」の音記がない。

26. 未曰一麻答 [imata] ↔ [ʔimada (未だ)]

音記したのは十二支の第八の「未」(羊)ではなく、前後の言葉に統一していない。

27. 乙曰及奴獨 [tɕinutu] ↔ [tʃinutu (乙)]

沖縄語辞典に「乙 cinutu」(ci=tʃi)とある。

28. 丁曰許叔度 [ɕysutu] ↔ [Φinutu (丁)]

沖縄語辞典に「丁 hwinutu」(hwi=Φi)とある。「叔」の発音は言葉に合わなく、「奴(nu)」の誤字だと考えられる。

29. 己曰午奴力 [unuli] ↔ [ʔunuri (己)]

「おのれ」は琉球で「ʔunuri」と発音する。この音記は十干の第六の「己」ではなく、前後に統一しない。

30. 庚曰喀瓦禄 [kʼaualu] ↔ [kauaru (更わる)]

音記は十干の第七の「庚」ではなく、「庚」は「更」の誤字として音記したと考えられる。

この以下は原文に「餘干支各如音讀 不復出 後仿此」とある。

31. 立春曰力順 [liʃun] ↔ [riʔʃiuN (立春)]

沖縄語辞典に「立春 riQsjuN」(Q=ʔ sj=ʃ)とある。

32. 元日曰光日即 [kuaŋʒɿtsi] ↔ [gwaNdʒitsi (元日)]

沖縄語辞典に「元日 gwaNʒiçi」(ʒi=dʒi çi=tsi)とある。

33. 人日曰仁日即 [ʒənʒɿtsi] ↔ [dʒiNdʒitsi (人日)]

34. 元夜曰光呀 [kuaŋja] ↔ [gwaNia (元夜)]

35. 社日曰蝦日即 [ɕiaʒɿtsi] ↔ [ʃiadʒitsi (社日)]

36. 雨水曰勿洗 [usi] ↔ [ʔusi: (雨水)]

沖縄語辞典に「雨水 ʔuʃii (ʃi=si)とある。

「洗」の対音から見ると、子音は未だsと発音している。

37. 驚蟄曰木石勿度禄骨 [muʃɿʔutuluku] ↔ [muʃiʔuduruku (虫驚く)]

沖縄語辞典に「虫 musi」(si=ʃi)、「驚く ʔudurucuN」とある。中国語の「驚蟄」は日本語の「啓蟄」(けいちつ)である。ここは意識である。

38. 春分曰順奔 [ʃunpuən] ↔ [ʃiuNbuN (春分)]

沖縄語辞典に「春分 sjuNbuN」(sj=ʃi)とある。

39. 上巳曰學眉 [ɕyəmɐi] ↔ [dʒio:mi (上巳)]

「學」の子音は対音の子音にスレが有る。原本に「巳」は「已」となっていた。沖縄語辞典に「上巳 saNgwaçisaNnici」(三月三日)とある。

40. 寒食曰感壽骨 [kaŋsəuku] ↔ [kaNʃiuku (寒食)]

沖縄語辞典に「寒 kaN」、「食 sjuku」(sj=ʃi)とある。

41. 清明曰詩眉 [sɿmɐi] ↔ [ʃi:mi: (清明)]
 沖縄語辞典に「清明 siimii」(si=ʃi) とある。
42. 穀雨曰古古勿 [kukuu] ↔ [kuku²u (穀雨)]
 沖縄語辞典に「穀雨 kuku²u」とある。
43. 立夏曰力喀 [lik'a] ↔ [ri²ka: (立夏)]
 沖縄語辞典に「立夏 riQkaa」とある。
44. 小満曰説満 [ʃuoman] ↔ [ʃiu:maN (小満)]
 沖縄語辞典に「小満 SjuumaN」(sjuu ← ʃio:) とある。「説」と ʃiu: が対応していることからみると、ʃiu: は未だ ʃio: と発音すると考えられる。以下の47、61、64の小暑、小雪、小寒もそうである。
45. 芒種曰泊書 [poʃu] ↔ [bo:ʃiu: (芒種)]
 沖縄語辞典に「芒種 boosjuu」(sj=ʃi) とある。
46. 夏至曰喀直 [k'atʃɿ] ↔ [ka:tʃi: (夏至)]
 沖縄語辞典に「夏至 kaacii」(ci=tʃi) とある。
47. 端午曰旦古 [tanku] ↔ [taNɡu (端午)]
48. 小暑曰説叔 [ʃuoʃu] ↔ [ʃio:ʃiu (小暑)]
 沖縄語辞典に「小暑 Kuu²aʃisa」とある。二十四気の「小暑」(しょうしょ)のような読み方ではない。
49. 大暑曰代叔 [taiʃu] ↔ [daiʃiu (大暑)]
 沖縄語辞典に「大暑 ²uu²aʃisa」とある。二十四気の「大暑」(だいしょ)のような読み方ではない。
50. 伏日曰福古日即 [fukuʒɿtsi] ↔ [Φukudʒitsi (伏日)]
51. 立秋曰力書 [liʃu] ↔ [ri²ʃiu: (立秋)]
 沖縄語辞典に「立秋 riQsjuu」(sj=ʃi) とある。
52. 処暑曰度古禄阿即煞 [tukuluatsisa] ↔ [tukuru²atsisa (処暑さ)]
 沖縄語辞典に「処暑 tukuru²aʃisa」(çi=tsi) とある。音記は「処」と「暑」の組み合わせで、二十四気の「処暑」(しょしょ)の読み方ではない。
53. 七夕曰達拿八達 [tanapata] ↔ [tanabata (七夕)]
 沖縄語辞典に「七夕 tanabata」とある。
54. 中元曰諸光 [tʃukuaŋ] ↔ [tʃiu:guaN (中元)]
55. 白露曰法古禄 [fakulu] ↔ [Φakuru: (白露)]
 沖縄語辞典に「白露 hakuruu」(ha ← Φa) とある。
56. 秋分曰書奔 [ʃupuən] ↔ [ʃiu:buN (秋分)]

沖縄語辞典に「秋分 SjuubuN」(sj=ʃi) とある。

57. 中秋曰諸書 [tʃʊʃu] ↔ [tʃiu:ʃiu: (中秋)]

58. 寒露曰剛禄 [kaŋlu] ↔ [kaNru (寒露)]

沖縄語辞典に「寒露 kaNru、kaNruu」 とある。

59. 霜降曰石木古答禄 [ʃɪmukutalu] ↔ [ʃimukudaru (霜降る)]

沖縄語辞典に「霜 simu」(si=ʃi) とある。音記は二十四気の「霜降」(そうこう)の発音ではない。

60. 重陽曰如若 [zʊzuo] ↔ [dʒiu:io: (重陽)]

61. 立冬曰力讀 [litu] ↔ [riʔtu: (立冬)]

沖縄語辞典に「立冬 riQtu:」 とある。

62. 小雪曰説由及 [ʃuoiaʊtʃi] ↔ [ʃioiaʊtʃi (小雪)]

沖縄語辞典に「小雪 kuujuci」(こゆき)とあり、「しょうゆき」と同じ、二十四気の「小雪」(しょうせつ)の発音ではない。

63. 大雪曰代由及 [taiiaʊtʃi] ↔ [daiiaʊtʃi (大雪)]

沖縄語辞典に「大雪 ʔuujuci」(おおゆき)とあり、「だいゆき」と同じ、二十四気の大雪(だいせつ)の発音ではない。

64. 冬至曰讀日 [tuʒɪ] ↔ [tu:dʒi (冬至)]

沖縄語辞典に「冬至 tuuzi」(zi=dʒi) とある。

65. 小寒曰説干 [ʃuokan] ↔ [ʃio:kaN (小寒)]

沖縄語辞典に「小寒 sjuukaN」(sj=ʃi) とある。

66. 大寒曰代干 [taikan] ↔ [daikaN (大寒)]

沖縄語辞典に「大寒 deekaN」(dee ← dai) とある。

67. 臘日曰那日即 [nozɪtsi] ↔ [ro:dʒitsi (臘日)]

第一音節対音字の子音 n が r と対応するのは四川羅江方言 n l 混同の影響を受けたと考えられる。

68. 除夜曰如呀 [ʒuia] ↔ [dʒiua (除夜)]

69. 月曰括子 [kuatsɪ] ↔ [guatsi (月)]

沖縄語辞典に「月 guatsi」 とある。琉球語彙にも「month gwatsee」 とある。

70. 日曰泥子 [nitsɪ] ↔ [nitʃi (日)]

沖縄語辞典に「日 nici」(ci=tʃi)、琉球語彙に「nitchee 日」 とある。

71. 朔曰由每街禄 [iəuməikailu] ↔ [iumikairu (蘇る)]

ここの「朔」は「溯」の通用字だと考えられる。

72. 朔日曰即達及 [tsitatʃi] ↔ [tsiitatʃi (朔)]

沖縄語辞典に「朔 ʃiitaci」(ʃi=tsi, ci=tʃi)、琉球語彙に「The first day chee

tatchee」とある。

73. 望日曰洵及即 [ɕyntɕitsi] ↔ [bordʒitsi (望日)]

第一音節対音字「洵」は「泊」(po)の誤字だと考えられる。第三音節的子音からみると「即」の子音はまだ口蓋化していない。

74. 晦日曰怪宜及 [kuainitɕi] ↔ [kuainitʃi (晦日)]

75. 節曰些古宜即 [siɕkunitɕi] ↔ [siʔkunitʃi (節供日)]

沖縄語辞典に「節供 siQku」とある。琉球対音からみると、第一音節「些」は未だ口蓋化していない。「宜」は鼻音子音で羅江方言の発音である。

以下、原文に「右四時」(以上は四時類)という説明語が有る。

76. 日曰及即 [tɕitsi] ↔ [dʒitsi (日)]

沖縄語辞典に「日 ziɕi」(zi=dʒi ɕi=tsi)とある。

77. 景曰喀 [k'a] ↔ [ka:ga: (影・陰)]

沖縄語辞典に「影 陰 kaagaa」とある。gaaの対音字がない。

78. 噉 旭曰許一即 [ɕyitsi] ↔ [Φiidzi (ひいず)]

79. 曙曰阿及不奴 [atɕipunu] ↔ [atʃiburu (曙)]

第四音節子音rが対音字のnで対音されたのは羅江方言の影響である。

80. 日晡曰苦力 [k'uli] ↔ [kuri (暮)]

沖縄語辞典に「暮れる juQkwijuN」(kwi ← kuri ← kure)とある。

81. 瞳 曉曰阿喀及即 [ak'atɕitsi] ↔ [ʔakatsitʃi (曉)]

沖縄語辞典に「曉 ʔakaɕiciʔuki」(ɕi=tsi ci=tʃi)とある。子音から見ると、第三対音字と第四対音字の順序は逆であったことも考えられる。

82. 曦曰阿煞虚 [asaɕy] ↔ [ʔasaΦi (朝日)]

「煞」の子音がsと読むのは羅江音で、北京音はʃと読む。

83. 噉 晦日古喇石 [kulaʃl] ↔ [kuraʃi (暗し)]

84. 朝日阿煞 [asa] ↔ [ʔasa (朝)]

沖縄語辞典に「朝 ʔasa」、琉球語彙に「meal 2nd (two hours after) Assabung (朝飯)」とある。「煞」の子音は羅江音でs、北京音でʃと読む。

85. 晨 旦曰阿石答 [aʃlta] ↔ [ʔaʃita (朝)]

86. 暮 夕曰八骨 [paku] ↔ [baku (莫)]

87. 夕又曰由比 [iəupi] ↔ [iubi (夕)]

沖縄語辞典に「昨夜 juubi」とある。

88. 暈曰喀煞 [k'asa] ↔ [kasa (暈)]

「煞」は羅江音である。

89. 華曰泥寡 [nikua] ↔ [nigiua: (賑わう)]

対音字音と琉球音は少しズレがある。

90. 夕陽曰石直薬 [ʃtʃʃiau] ↔ [ʃitʃio: (夕陽)]

薬は羅江音で [io] と読む。

91. 返照曰熏學 [ɕynɕyɐ] ↔ [ʔenʃio: (返照)]

92. 月曰即及 [tsitɕi] ↔ [tsitʃi (月)]

沖縄語辞典に「月 ɕici」(ɕi=tsi ci=tʃi)、琉球語彙に「moon、full maroostitchee」とある。

93. 臙 臙 臙 臙曰武不禄 [upulu] ↔ [ʔuburu (臙)]

94. 臙曰阿及喇喀那喇即 [atɕilakʼanalatsi] ↔ [ʔatʃilakanalatsi (明らかならず)]

95. 星 宿曰佛什 [foʃʌ] ↔ [ʔuʃi (星)]

沖縄語辞典に「星 husi」(si=i)、琉球語彙に「stars fooshii」とある。

96. 二十八宿曰宜如法叔古 [niʒufaʃuku] ↔ [nidʒiuʔaʃiuku (二十八宿)]

97. 杓曰即喀 [tsikʼa] ↔ [tsika (櫛)]

98. 奎 魁曰煞及喀及 [satɕikʼatɕi] ↔ [satʃikatʃi (先駆)]

99. 昂曰佛什武 [foʃʌu] ↔ [ʔuʃiʔu (星を)]

「佛什」は95に参照する。「武」は「を」の対音字だと考えられる。

100. 畢曰許即 [ɕytsi] ↔ [ʔitsi (畢)]

101. 觜曰武喀眉 [ukʼamɐi] ↔ [u:ɡami (おおかめ)]

「觜」は「くちばと」で、ここではおそらく「鼈、亀」など字に間違っ音記しただろう。

以下、「右曰星」という説明語が有る。

102. 風曰喀即 [kʼatsi] ↔ [Kadzi (風)]

沖縄語辞典に「風 kazi」(zi=dʒi → dzi)、琉球語彙に「wind kazzee」とある。

103. 颺曰奴瓦及 [nuuatɕi] ↔ [ʔ]

琉球音は不明。

104. 颺 颺 颺 颺曰武父喀即 [ufukʼatsi] ↔ [ʔuikadzi (大風)]

沖縄語辞典に「大風 ʔuukazi」(zi=dʒi) とある。第二音節対音字的 f 子音からみると、当時の首里語の第二音節に子音 ʔ はあったようだ。

105. 雲曰骨木 [kumu] ↔ [kumu (雲)]

沖縄語辞典に「雲 kumu」、琉球語彙に「cloud koomoo」とある。

106. 雯曰骨木奔武那息 [kumupuənunasi] ↔ [kumubuNunasi (雲雯をなす)]

107. 雷曰喀密拿利 [kʼaminali] ↔ [kaminari (雷)]

沖縄語辞典に「雷 kaNnai」(N ← mi i ← ri) とある。

108. 震曰福禄 [fulu] ↔ [ʔuru: (振る)]

109. 霹靂曰一喀即及 [ik'atsitɕi] ↔ [ʔikadzitʃi (雷)]
110. 霹靂曰一喀即及奴古一 [ik'atsitɕinukui:] ← [ʔikadzitʃinukui (雷の聲)]
 沖縄語辞典に「声 kwii」とある。
111. 雨曰阿眉 [aməi] ↔ [ʔami (雨)]
 沖縄語辞典に「雨 ʔami」、琉球語彙に「rain amee」とある。
112. 淋 霪 霖曰那喀阿眉 [nak'aaməi] ↔ [nakaʔami: (霖)]
113. 凍曰孤力 [kuli] ↔ [ku:ri (冰)]
 「凍」は「凍」と書くべき。沖縄語辞典に「冰 kuuri」とある。
114. 霏 零 滂沱曰阿眉父禄 [aməifulu] ↔ [ʔami:Φuru (雨降る)]
 沖縄語辞典に「雨降り ʔamihui (h ← Φ i ← ri)」とある。
115. 雪曰由及 [iəutɕi] ↔ [iutʃi (雪)]
 沖縄語辞典に「雪 ʔjuci (ci=tʃi)」とある。
116. 霜曰石木 [ʃɭmu] ↔ [ʃimu (霜)]
 沖縄語辞典に「霜 simu (si=ʃi)」とある。
117. 露曰即由 [tsiiəu] ↔ [tsiiu (露)]
 沖縄語辞典に「露 ɕiju (ɕi=tsi)」とある。
118. 烟曰及木里 [tɕimuli] ↔ [tʃimuri (煙)]
 沖縄語辞典に「煙 cimuri (ci=tʃi)」とある。
119. 霞曰喀席米 [k'asimi] ↔ [kasimi (霞)]
120. 電曰以拿即木 [inatsimu] ↔ [ʔinadzima (電)]
 対音字「木」の母音「u」は琉球音の「a」に合わなく、誤字かもしれない。
 亦曰一那必喀力 [inapik'ali] ↔ [ʔinabikari (稲光)]
121. 霧 霂曰及里 [tɕili] ↔ [tʃiri (霧)]
 沖縄語辞典に「霧 ciri (ci=tʃi)」とある。
122. 霓 蜺 蜺曰宜及 [nitɕi] ↔ [nidʒi (虹)]
 沖縄語辞典に「虹 nuuzi (zi=dʒi)」とある。対音は日本本土の読方である。
123. 霰曰阿喇里 [alali] ↔ [ʔarari (霰)]
 沖縄語辞典に「霰 juci」琉球語彙に「rainbow roo-oojee」とある。対音は日本本土の読方である。
124. 雹曰薄 [po] ↔ [p'io (雹)]
 琉球音は「ひょう」に「p」の子音を持っているだろう。
 以下、「右風雷」(以上は風雷類)という説明語が有る。

125. 地曰直 [tɕɿ] ↔ [dʒi: (地)]

沖縄語辞典に「地 zii」、琉球語彙に「earth jee」とある。

126. 土 坤曰即直 [tsitsɿ] ↔ [tsitʃi (土)]

沖縄語辞典に「土 'Nca」とある。対音は日本本土の読方である。

127. 地祇曰直奴喀米 [tɕɿnuk'ami] ↔ [dʒinukami (地の神)]

沖縄語辞典に「神 kami」とある。

128. 疆曰煞界 [sakai] ↔ [sakai (境)]

沖縄語辞典に「境 sakee」(ee ← ai) とある。

129. 垓曰及瓦 [tɕiua] ↔ [tʃiua (極)]

沖縄語辞典に「極 ciwa」(ci=tʃi) とある。垓、遠い地上の果て。

130. 封 界 域曰煞喀一 [sak'ai] ↔ [sakai (境)]

128条と同じな発音。

131. 郊曰午喀 [uk'a] ↔ [ʔuka (岡)]

132. 野曰奴 [nu] ↔ [no: (野)]

沖縄語辞典に「野 noo」とある。

133. 甸曰午煞木六 [usamulu] ↔ [ʔusamu 或いはʔusamiru (治る)]

甸、領地をおさめる、支配する。二つの解説に、「おさむ」(「甸」の古読)は「六」、「おさめる」は「木」、それぞれ餘分の対音字と母音に合わない対音字である。

134. 澤曰煞瓦 [saua] ↔ [saua (澤)]

沖縄語辞典に「沢 saku、suku」と発音する。saua と読むのは本土の読み方である。

135. 國曰古古 [kuku] ↔ [kuku (国)]

沖縄語辞典に「大国 teekuku」(tee ← ai) とある。

136. 邦 州曰古宜 [kupi] ↔ [kuni (国)]

沖縄語辞典に「国 kuni」とある。

137. 郡曰公 [kuŋ] ↔ [kuN (郡)]

138. 縣曰木納 [muna] ↔ [mura (村)]

沖縄語辞典に「村 mura」とある。『琉球譯』には中国の県が琉球の村、島にあたる行政区を見ている。n と r にスレが有り、羅江音が n を l と読む現象を反映する。

139. 邑曰有 [iəu] ↔ [iu: (邑)]

140. 鄉黨曰煞度 [satu] ↔ [satu (里)]

141. 鄉又曰覺 [tɕyə] ↔ [tʃio: (郷)]

「覺」は官話の口語音 [tɕio] と読む可能性も考えられる。

142. 鄰曰獨那力 [tunali] ↔ [tunari (鄰)]

沖縄語辞典に「鄰 tunai」(i ← ri) とある。

143. 里曰獨古禄 [tukulu] ↔ [tukuru (所)]

沖縄語辞典に「所 tukuru」とある。

亦曰利 [li] ↔ [ri (里)]

沖縄語辞典に「里 ri」とある。

144. 京都曰米牙古 [miiaku] ↔ [miiaku (都)]

沖縄語辞典に「都 mijaku」とある。

145. 部曰瓦喀即 [uak'atsi] ↔ [uakatsi (部)]

146. 番曰直木奴奴阿石 [tʃɪmununuaʃɪ] ↔ [tʃimununuʔaʃi (獣の足)]

ここの「番」は「蹠」に当てた用法。

147. 隅曰息米 [simi] ↔ [simi (隅)]

沖縄語辞典に「隅 ŝimi」(ʃi=si) とある。

148. 羌曰宜石奴一必息 [niʃɪnuipisi] ↔ [niʃinuʔibisi (西の戌)]

羌族、中国北西部住んでいた民族。

149. 田疇曰午你 [uni] ↔ [ʔuni (疇)]

150. 畔曰答奴煞喀一 [tanusak'ai] ↔ [tanusakai (田の境)]

151. 阡 陌 坊 區曰及麻答 [tɕimata] ↔ [tʃimata (阡)]

152. 陂 臯曰即即米 [tsitsimi] ↔ [tsitsimi (堤)]

153. 塵 埃曰及力 [tɕili] ↔ [tʃiri (塵)]

沖縄語辞典に「塵 ciri」(ci=tʃi) とある。

原文に以下「右土地」(以上は土地類)という説明語が有る。

原文の次の部分は「譯地第五・村島」となり、「琉球曰倭急拿」から「赤尾嶼曰什及必叔」まで全文合計199條の寄語は筆者の論文『「琉球訳」における琉球地名の対音解読』(琉球の方言21号 1996年)によって解読された。それを参照してください。

譯 數 第 七

154. 一 壹曰抵即 [titsi] ↔ [ti:tsi (一)]

沖縄語辞典に「一 tiitçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「one teetsee」とある。

155. 二 貳曰答即 [tatsi] ↔ [ta:tsi (二)]

沖縄語辞典に「二 taachi」(çi=tsi)、琉球語彙に「two tatsee」とある。

156. 三 叁曰米即 [mitsi] ↔ [mi:tsi (三)]

沖縄語辞典に「三 miiçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「three meetsee」とある。

157. 四曰噲即 [ioticsi] ↔ [iioticsi (四)]

沖縄語辞典に「四 juuçi」(juu ← jo: çi=tsi)、琉球語彙に「four eotsee」とある。

158. 五 伍曰一即即 [itsitsi] ↔ [itsitsi (五)]

沖縄語辞典に「五 ?içiçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「five ittitsee」とある。

159. 六 曰拇即 [mutsi] ↔ [mutsi (六)]

沖縄語辞典に「六 muuçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「six mootsee」とある。

160. 七 曰納納即 [nanatsi] ↔ [nanatsi (七)]

沖縄語辞典に「七 nanaçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「seven nannatsee」とある。

161. 八 曰呼即 [iatsi] ↔ [ia:tsi (八)]

沖縄語辞典に「八 jaaçi」(çi=tsi)、琉球語彙に「eight eyatsee」とある。

162. 九 曰科姑奴即 [k'okunutsi] ↔ [kokunutsi (九)]

沖縄語辞典に「九 kukunuçi」(çi=tsi ku ← ko)、琉球語彙に「night koonnitsee」とある。

163. 十 曰禿即 [t'utsi] ↔ [tu: (十)]

沖縄語辞典に「十 tuu」、琉球語彙に「ten too」とある。琉球音からみると、第二対音字「即」は衍字である。徐葆光『中山伝信録』にも「十 拖子」(t'utsi)であって、『琉球譯』はその影響を受けた可能性がある。

164. 十一 曰禿抵即 [t'utitsi] ↔ [tutit:tsi (十一)]

「十」(163條)と「一」(154條)の組み合わせ。原文に「曰」は「月」に間違えた。

165. 旬 曰徂 [ts'u] ↔ [dʒiu: (十)]

沖縄語辞典に「十 zuu」(z=dʒi)、琉球語彙に「ten joo」とある。

166. 二十 曰膩徂 [nits'u] ↔ [nidʒiu: (二十)]

沖縄語辞典に「二十 nizuu」、琉球語彙「twenty neejoo」とある。琉球語彙に、twenty は「百」の発音をして、twenty one から twenty nine までは百十から百九十までの発音をして、誤記である。『琉球譯』の「二十」と以下の三十、四十、五十、六十、八十、一百、千、一千など條目の対音字は『中山伝信録』と同じである。

167. 三十 曰摻徂 [ts'ants'u] ↔ [saNdʒiu: (三十)]

沖縄語辞典に「三十 saNzuu」、琉球語彙に「thirty sanjoo」とある。

168. 四十 曰細徂 [çits'u] ↔ [ʃi:dʒiu: (四十)]

沖縄語辞典に「四十 sizuu」(si=ʃi)、琉球語彙に「forty sheenjoo」とある。

169. 五十 曰古徂 [kuts'u] ↔ [gudʒiu: (五十)]

沖縄語辞典に「五十 guzuu」、琉球語彙に「fifty goonjoo」とある。

170. 六十 曰六古徂 [lukuts'u] ↔ [rukudʒiu: (六十)]

沖縄語辞典に「六十 rukuzuu」、琉球語彙に「sixty roocoojoo」とある。

171. 七十曰納徂 [nats'u] ↔ [nanadziu: (七十)]

「na」の対音字は一つ少ない。

172. 八十曰河汁徂 [xytsʰts'u] ↔ [hatʃidziu: (八十)]

沖縄語辞典に「八十 hacizuu」(ci=tʃi)、琉球語彙に「eighty fatcheejoo」とある。

173. 九十曰枯徂 [k'uts'u] ↔ [kudziu: (九十)]

沖縄語辞典に「九十 kuzuu」、琉球語彙に「ninety coojoo」とある。

174. 一百曰夏古 [ɕiaku] ↔ [hia:ku (百)]

沖縄語辞典に「百 hjaaku」、琉球語彙に「hundred hacoo」とある。

175. 百曰木木 [mumu] ↔ [mumu (百)]

沖縄語辞典に「百 mumu」とある。

176. 千曰先 [ɕiɛn] ↔ [ʃiN (千)]

沖縄語辞典に「千 siN」(si=ʃi)、琉球語彙に「hundred (thousand の誤記) sing」とある。

177. 一千曰一貫 [ikuan] ↔ [ʔiʔkaN (一貫)]

沖縄語辞典に「一貫 ʔiQkwaN」とある。

178. 萬曰由六即 [iəulutsi] ↔ [iuludzi (萬)]

179. 兆曰著 [tʃsuo] ↔ [tʃio: (兆)]

180. 億曰武古 [uku] ↔ [ʔuku (億)]

181. 絲曰十 [ʃt] ↔ [ʃi (糸)]

182. 毫曰及 [ki] ↔ [ki: (毛)]

沖縄語辞典に「毛 kii」とある。琉球音から見ると、「及」の子音はまだ口蓋化していない。

183. 忽曰服即 [futsi] ↔ [ʔutsi (忽)]

184. 釐曰力 [li] ↔ [ri (釐)]

185. 分曰瓦喀即 [uak'atsi] ↔ [uakatsi (分つ)]

対音は「分」の動詞音で、度量単位の発音ではない。

186. 錢曰買每 [maiməi] ↔ [maimi (枚目)]

沖縄語辞典に「枚 mee」(ee ← ai) とある。『琉球館譯語』、陳侃『使琉球録』、夏子陽『使琉球録』、蕭崇業『使琉球録』、徐葆光『中山傳信録』に「一錢、二錢、三錢……八錢、九錢、一兩」など十項目は全部「X (1-10) 買每」で対音した。『琉球譯』もその影響を受けたと考えられる。

亦曰毛維 [mauuəi] ↔ [mai (枚)]

対音字音「uuə」の部分は琉球音に合わない。

187. 兩曰聊茶切 [lo] ↔ [ro: (兩)]

「聊茶切」は反切音記である。『中山伝信録』から引用したものだから、子音は「聊」の子音の l で母音は「茶」の蘇州音の [o] である。沖縄語辞典に「兩 roo」とある。

亦曰周維 [tʃəuuəi] ↔ [?]

188. 半曰納喀巴 [nak'apa] ↔ [nakaba (半ば)]

沖縄語辞典に「半ば nakaba」とある。

189. 一樣曰一奴拿奴 [inunanu] ↔ [?]

亦曰因以木奴 [inimunu] ↔ [?]

190. 輕曰喀羅煞 [k'aluosa] ↔ [karusa (軽さ)]

徐葆光『中山伝信録』から引用した條目。「羅」は徐氏方言の蘇州音の「lu」で、北京音の「luo」ではないと考えられる。

191. 重曰五卜煞 [upusa] ↔ [ʔubusa (重さ)]

沖縄語辞典に「重い ʔNbusaN」(ʔN ← u) とある。

192. 單曰許獨力 [ɕytuli] ↔ [Φituri (獨り)]

193. 雙曰甫答即 [futatsi] ↔ [Φutatsi (二つ)]

194. 多曰屋火煞 [uxuosa] ↔ [ʔuΦusa (多い)]

沖縄語辞典に「多い ʔuhusaN」(hu=Φu) とある。『中山伝信録』から引用したもの。第二音節は北京音の「xuo」ではなく、蘇州音の「xu」と読むことが考えられる。

亦曰烏石 [uʃl] ↔ [uʃi (多い)]

195. 少曰一革拉煞 [ikəlasa] ↔ [ʔikirasa (少ない)]

『中山伝信録』から取入れた條目。沖縄語辞典に「少い ʔikirasaN」とある。

亦曰息古那石 [sikunaʃl] ↔ [sikunaʃi (少ない)]

又曰速都 [sutu] ↔ [suʔtu (少ない)]

沖縄語辞典に「少ない suQtu」とある。『中山伝信録』から取入れた條目。

196. 一兩曰執買每 [tʃlmaiməi] ↔ [dʒiʔmaimi (十枚目)]

『中山伝信録』から取入れた條目。

197. 十兩曰撒姑每 [sakuməi] ↔ [Φiakumaimi (百枚)]

『中山伝信録』から取入れた條目。「Φia」を「sa」と音記して、ズレが有る。「一錢」から「一兩」までのように、「買每 (枚目)」とすべきで、ここに「枚」の対音字が脱落した可能性が有ると考えられる。

198. 百兩曰撒牙姑 [saiaku] ↔ [Φiaku (百)]

『中山伝信録』から取入れた條目。「撒牙」二字は「Φia」を音記した。

199. 萬歲曰麻孰獨石 [maʃutuʃl] ↔ [(?) tuʃi (? 歳)]

「麻孰」は『中山伝信録』の対音字として踏襲され、「萬」の意味だが、琉球語の発

音が不明。

200. 千歳曰森那 [sənno] ↔ [siNno (千の)]

「千」は176條を参照する。「那」は「の」の対音字だと考えられる。この條目は『中山伝信録』から引用したものである。

201. 萬萬歳曰麻由獨石 [maiəutuʃɫ] ↔ [(?) tuʃi (?歳)]

これも『中山伝信録』と同じな條目である。「麻由」の琉球音は不明。

202. 規曰以喀答 [ik'ata] ↔ [ʔikata (范)]

沖縄語辞典に「鋳型 ʔikata」とある。

203. 矩曰奴力 [nuli] ↔ [nuri (矩)]

204. 準曰順 [ʃun] ↔ [dʒiuN (準)]

205. 繩曰那尾 [nauəi] ↔ [na: (繩)]

沖縄語辞典に「繩 naa」とある。「尾」の琉球音は不明。

206. 斤曰金 [tɕin] ↔ [tʃiN (斤)]

沖縄語辞典に「斤 ciN」(ci=tʃi)とある。

207. 權曰法喀力 [fak'ali] ↔ [Φakari (秤)]

沖縄語辞典に「秤 hakai」(ha ← Φa i ← ri)とある。

208. 量 斛曰法喀禄 [fak'alu] ↔ [Φakaru (量る)]

209. 衡曰由古答瓦禄 [iəukutauaru] ↔ [iukutauaru (衡)]

210. 秤曰古版 [kuban] ↔ [gubaN (碁盤)]

沖縄語辞典に「碁盤 gubaN」とある。

211. 度曰獨 [tu] ↔ [du (度)]

沖縄語辞典に「度 du」とある。

212. 戥曰獨石 [tuʃɫ] ↔ [tu:ʃi (戥子)]

亦曰法介依 [fakaii] ↔ [Φakai (秤)]

207條の「權曰法喀力」を参照。

213. 丈曰著 [tʃuo] ↔ [dʒio: (丈)]

沖縄語辞典に「丈 zoo」(zoo=dʒio:)とある。

214. 尺曰答及 [tatɕi] ↔ [tatʃi (丈)]

215. 尺曰石牙古 [ʃɪaku] ↔ [ʃiaku (尺)]

沖縄語辞典に「尺 sjaku」(sj=ʃi)とある。

216. 寸曰尋 [ɕyn] ↔ [ʃiN (寸)]

沖縄語辞典に「寸 siN」(si=ʃi)とある。

217. 尋曰答竹你禄 [tatʃunilu] ↔ [tadzuniru (尋ねる)]

沖縄語辞典に「尋ねる taḡiniḡuN」(ḡi=dzi ← dzu) とある。第二対音字「竹」の母音 u から見ると、琉球音も u と読むべきである。

218. 常曰即你 [tsini] ↔ [tsini (常)]

沖縄語辞典に「常 ḡini」(ḡi=tsi) とある。

219. 斗曰獨 [tu] ↔ [tu (斗)]

沖縄語辞典に「斗 tu」 とある。

220. 斛曰古 [ku] ↔ [kuku (斛)]

対音字が一つ脱落した可能性が有る。

221. 升曰奴不禄 [nupulu] ↔ [nuburu (登る)]

沖縄語辞典に「登る nubujuN」とある。ここは「升」の動詞音であり、「ます (枅)」の発音ではない。